

◆2020年 中学入試算数 講評【筑波大学附属駒場】

例年筑駒の算数は、理系の東大生でも おそらく 8 割以上の人が 1 時間はかかる難問だと思います。それをたったの 40分という試験時間で解かなければならない、まさにエリートオブエリートを選抜する試験です。

去年は時間負荷の厳しさ、問題自体の難しさ共に、これほどの難易度の試験は類を見ないのではないか、と思うほどの問題群でしたが、今年はかなり素直な問題が多かった印象です。

大問 1 整数 場合の数

(3) で、 $97=47+50$ $147=47+100$ と分解し、 $1499-47\times 17=700$ になることから、50と100で700を作る方法か、と問題を変換できたら、かなり早く解くことができます。筑駒らしい問題とも言えます。

大問 2 整数 場合の数

各位の数を入れかえた数の合計について検証する問題です。同じ数がないか、一組あるか、などで場合分けすることができれば、例年の筑駒の問題に比べると素直な出題です。

大問 3

タクシーの料金設定に、距離だけでなく時間によっても料金が增加する設定が加えられた問題です。ですが、複雑ではなく、素直な出題です。

大問 4 平面図形

長方形の中に点を設けた時に、各辺とできる 4 つの三角形の面積についての考察です。一旦正方形について考えてみると、考えやすいと思います。